

情報連絡一覧票（9月）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	パン	・残暑が厳しかったこともあり集客の回復が遅れている状況。 ・マスク報道通り物価高を実感している一般顧客も多く財布のひもは固い。 ・さらにインフラ料金値上げ（補助金打ち切り）報道もあり苦戦した。ここにきて延長の話も出てきているが総じて高くなってきており収益面で苦戦が続いている。
	酒造	令和5年8月の清酒課税移出数量の特定名称酒は対前年比110.69%と上回った。内訳は吟醸酒116.35%、純米吟醸118.83%、純米酒107.72%、本醸酒99.77%となった。特定名称酒以外の普通酒は対前年比91.27%と下回り、合計で対前年比108.46%と前年を上回る結果となった。
	食品	夏休みも終わった9月だが原料魚不足、電気料金及び諸資材値上がりに加え、猛暑と顧客の購入単価伸び悩みで利益確保が難しい状況である。加えて、一部組合員には円安影響を受けるなど業界を取巻く環境は全体的に厳しい。組合内部には「既に値上がりしているガソリンや電気料金の先行き不透明感が事業活動を委縮させているのではないかと」感じている者もいる。このような中、雇用人員が全体的には減少傾向で変わらないが一部組合員に増加が見られたことは先行きに期待を感じさせる動きである。
	牛乳	8月に値上げが行われ、牛乳類の数量は低下したが、売上は上昇。
木材・木製品	家具	ウッドショック自体は鎮静化。しかし副資材・運送費などすべてが上昇している。対抗策として企業は販売価格の値上げに踏み切らざるをえないが、多くの中小企業は苦慮している。人材不足の状況にあるが、中小企業にとって、賃上げ余力は乏しいのが実情である。家具の小売り実績は、昨対を割っている。当組合では、新しい顧客開発と知名度向上を期して、6月に展示会「よこはま匠フェスティバル」を開催し好評を博した。来年6月上旬、第2回展示会開催を決定し定着化を図る。また、7月に技能検定実技試験（家具手加工・いす張り）を実施し、24人と多くの若者が受験し6名の1級技能士が誕生した。
印刷	製本	9月の仕事量は前年と変わらず低迷しているが引き合いは増えておりこれから年末にかけて期待したい。長引く低迷で各社の状況は厳しく、8月末～9月で神奈川県製の製本会社が3社製本からの撤退や廃業となった。今後生き残る為には設備投資・人材の補強が急務となるが、製造コストの急騰で利益が出ず投資をする資金がない状況にある。業界全体で値上げをしていかなければ近い将来破綻してしまうのではないかとという危機感がある。
	印刷	日本製紙連合会はこのほど、「2023年8月 紙・板紙需給速報」を発表した。紙・板紙の国内出荷は前年同月比8.5%減、12ヶ月連続のマイナス。グラフィック用紙は11.3%減、19ヶ月連続のマイナス。パッケージング用紙は7.5%減、11ヶ月連続のマイナス。主要品種はマイナス。紙・板紙の在庫は前月比31千トン増、2ヶ月連続の増加。グラフィック用紙は59千トン増、2ヶ月連続の増加。パッケージング用紙は28千トン減、2ヶ月ぶりの減少。衛生用紙は横ばい。グラフィック用紙では、塗工紙を中心に印刷・情報用紙が増加。パッケージング用紙では、段ボール原紙が減少。
化学・ゴム	石油製品	組合員からは、今月も「円安に起因する原材料費や荷造運賃等の値上げ分の転嫁が課題」との情報が寄せられた。
窯業・土石製品	砕石	生コンクリートの出荷が8月後半から前年に比べ減少したため、骨材の出荷も減少した。
鉄鋼・金属	工業塗装	主力である防衛産業は全般的には順調である。ただNECの防衛産業は不調。民需に関しても、取引先の受注は増加しているようだ。
	工業団地	操業を反映する9月の電力使用量は前月比-3.74%となるが前年同月比においては5カ月ぶりに+1.16%となった。エネルギー価格高騰により激変緩和措置が取られていたが、当組合は特別高圧のため対象外であった。5月の補正予算で特別高圧受電者にも給付金支給が決まり組合で申請書類を取りまとめている。人材確保のため各企業とも募集に力を注いでいるが、応募が芳しくなく苦戦している。
	工業団地	大型車両メーカーの回復傾向に、サプライヤーの対応が厳しい状態に見える。今までの生産調整後の再スタートにより人的資源不足、用力費用の増加がネック。それでも売上上昇により収益の改善方向。
	工業団地	期待した受注増が何故か落ちている。考えられる要因は取引先の在庫調整と思われる。先々の回復が見込まれるので現在はしのいでいる状態。
	金属製品	思うように仕事量が増えていない。人手不足は変わらないが、仕事量の増加が見込めず、人材確保に躊躇している。来年度の新卒採用を見送る企業もある。外国人採用も視野に入れているが、円安で日本で稼ぐ魅力が薄れている。
輸送機器	船舶製造・修理	鋼材価格推移は、原材料の鉄鉱石や鉄スクラップの価格や需給状況に影響される。昨年上期は鉄鉱石価格が\$200を超えるなど原材料価格が高騰した。日本の鉄鋼メーカーは製品価格を数度に亘って引き上げた。しかし下期には原材料価格が下落に転じ、鋼材価格も上昇基調が一服し、高値安定の傾向が強まった。今年上期現在、鋼材価格は歴史的な高値圏にあるものの、先行きの上昇余地は限られているとの見通し。
その他の製造業	工業中心の複合業種	業種には関係なく、月ごと、週ごとに受注量の増減が大きく安定しない。全体では低迷傾向。工場の拡張を考えていた企業も、受注減により計画を見直すところも出ている。
	工業中心の複合業種	・半導体関連の動きが活発化されているが納品に時間がかかっている。 ・コロナによる生活環境の変化により、受注変化への対応が求められる。 ・価格転嫁が進みつつあり、業界全体に好転の兆しあり。 ・中国国内景気の弱含みによる影響が懸念される。

情報連絡一覧票（9月）

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	菓 子 卸		売上は変わらず3割減が続いている。8月同様9月も飲料はそこそこだが、菓子は伸びなかったようだ。燃料費の高騰や値上げによる事務作業の増加に加えて、コロナやインフルエンザになる従業員やその家族が増えており、労働力の確保に苦労しているようだ。
	卸 団 地		売上については前年同月比で増加となったが、新型コロナ禍以前（3年前）と比較した場合、依然減収している状況。（一部企業では3年前比増収となっている）取扱い商品・販売ターゲットによって業績格差が顕著に表れている。アフターコロナによる世界的な需要増とロシアのウクライナ軍事侵攻等による原油高、半導体不足・小麦不足等によって、海外調達遅延、仕入価格上昇、物流経費増加によって変動費が上昇し、収益悪化が表れている。現時点では材料等仕入れ価格の上昇、電気料と物流経費増加分を販売価格に一部転嫁実現できた企業もあるが依然中小企業の大半が転嫁することが厳しい状況。（売上先により格差がある。）物価高騰の変動費上昇分を売上転嫁できるか否か、特に中小企業の事業継続の鍵を握るものと思慮。
	リ サ イ ク ル	【新聞古紙】 韓国からの需要が回復する様子は無く、価格は下落傾向にある。マレーシアからの引合いはあるものの、同国向け輸出は検査機関によるバンニング時の立会検査が必要な為、敬遠する問屋も多く、輸出数量は限られている。 【雑誌古紙】 発生量減少による供給タイトな状況が生じているなか、一部の海外メーカーからの引合いが強まっている。輸出商社では今後の値上がり期待した仕入先行の動きも見られ、問屋店頭価格が上昇している。 【段古紙】 東南アジアで欧米品の価格が上昇していることに伴い、日本品も一部メーカー向けで上昇している。タイやマレーシアにおいて新たな古紙パルプ製造工場が稼働し始めており、新規の段ボール古紙需要が生じていることが背景にある模様。但し、製品の販売不振は続いている為、継続的な相場上昇は考えにくい。製造された古紙パルプが中国へ流れるとすると、これまで中国が日本や東南アジアから輸入していた原紙の数量減へ繋がる可能性もある。	
	リ サ イ ク ル	古紙市況は国内における発生、消費も減少が継続している。アジア向けの輸出についてもアジア経済の減速から輸出価格が下落しており、輸出面も低迷していることが国内の古紙市場に対して弱気の要因となっている。鉄スクラップ市況は、海外市場が引き続き好調で為替の円安ドル高により価格も上昇基調となっている。しかし、国内発生量は夏枯れという季節的要因により、減少傾向が続いている。アルミ市況は自動車産業界の国内生産復調により、先行きは上向きになってきたが、現状は期待値込みの希望的観測も大いにあるため、来月以降の状況を見極める必要がある。	
	機 械 器 具		車関係が良くなっているとの統計があるが、実感はあまりない。半導体業界は極めて悪い。倒産の話も出てきている。経営者の高齢化が進んでいる。
小 売 業	菓 子		菓子業界は夏は大変だ。
	化 粧 品		9月に入りかながわペイが終了した。やはり終了後に客数が減った。売上を上げるには大変な難しいポイント還元キャンペーンだった。また再開されることを期待している。
	電 化 製 品		日本電機工業会による1～8月の出荷統計を見ると台数ではエアコンは前年同期比93.7%、また金額では96.9%と前年実績割れに終わった。家庭用電気機器と金額面で前年クリアできたのは洗濯機、掃除機、電子レンジ、ジャー炊飯器、シェーバー、ドライヤーの6商品のみ。「夏が暑ければエアコンは売れる」という業界常識が外れた今年のエアコン最盛期商戦だった。
	書 店		コロナ禍ではコミックを中心に巣ごもり需要で売上が増加したが消費動向が外出へとシフト。出版市場は再び減少傾向に陥り抜け出せる材料が見当たらない。物価や電気代の上昇が家計を圧迫していることもあって市場は冷え込んでいる。
	青 果		学校給食は再スタートしたが主力品の人参の2Lサイズが不足し、その上に品質が悪く”割れ””芯ぐされ””とげ”と3拍子揃ったため、Mサイズでの納品もOKとなったが品揃えにも苦労した。大根や岩槻ネギ、葉物も同様品薄、粗悪でおまけに高値と踏んだり蹴つたりの状況であった。悪い事はそれだけでなくトマトまでもが色付き悪く、引きずられる様にミニトマトも最高値になる始末であった。8月の猛暑・豪雨は今後の作物の作柄にも悪影響を及ぼすことは間違いないようである。
	青 果		9月に入っても、異常とも思われる猛暑続きで、青果物全般にわたり、高温障害の影響で各産地で品質の低下、出荷量の減少により相場は高値が続く、仕入れ・荷揃えではかなり厳しい状況であった。一般消費需要も物価高の中、低迷し小売販売には苦戦した。総体的には、高値であったため販売量前年対比96%・売上高前年比100.6%であった。
	鮮 魚		サンマはやはり高値。魚体も小さく「おすすめ」とは言い難い。「一尾百円」で特売を打ったのはもう昔の話になった。国内産地の不漁で給食用の物資も調達が難しくなってきた。
	燃 料		エネオスの仕切り価格は、政府補助金込みの実質ベースで4週連続してリッター当たり合計12円90銭下落した。また、9月末で終了する補助金は、新たに10月以降の補助金が示され、岸田総理が記者会見で言われた9月中旬に180円レベル、そして10月には175円レベルで対応したい旨の発言があった。しかしながらどういふ訳か175円が独り歩きをしており、急激に価格が大幅に下落している地域が散見される状況。9月27日時点のエネオス仕切り価格は、リッター当たり税込み151.1円であり、人件費等、物価が上昇している現状を踏まえると、低マージンでは経営が成り立たないという現場の声が強くなってきている状況だ。神奈川県のガソリン平均価格は9月21日現在で、182円である。（情報センター公表）
	共 同 店 舗		コロナが5類後少しずつ景気がよくなった。
タ イ ヤ 販 売		原材料高騰による仕入価格の高騰で売り上げは増えているものの販売本数は横ばいか減少している為、利益は増えていない。作業工賃などのサービス部分を値上げしないと賃金上昇に結び付かない事業所が多い。コロナの影響で滞っていたアクティビティが今後増加されることにより、需要が増えることを今後期待したい。停滞していた対面での組合活動も本格的に再始動し業界の活性化を図っていききたい。	

情報連絡一覧票（9月）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
商店街	川 崎 市	今月は例年に比べ夏のような暑さが続いていたので、秋物商品が動かず各業種とも厳しい状況が続いている。コロナやインフルエンザ等の感染症がじわじわ広がって暑さとのダブルできている。この夏は閉店するお店が多くあった。閉店する要因がお店によってまちまちだが人手不足が根底にあるように思う。
	横 浜 市	価格上昇と原価上昇が合わないので収益悪化の状況は続いている。人も不足の状態だ。
	相 模 原 市	商売をやめる店、営業はしているが組合を退会する人。申し訳なさそうに「このまま営業を続けるには何か経費を削らなければ」と深刻に相談されると引き留めることもできない状況。組合としても危機を感じている。
	横 須 賀 市	9月期も物価高騰と猛暑が続き来街者は伸び悩んでいる。10月期は街区内の大型店の26周年による来街者増への期待と、15日から横須賀市が発行するプレミアム商品券「よこすか地元の元気応援券」や22日（日）に開催するハロウィンフェスティバル・花火大会等もあり消費を刺激し来街者を呼び戻すきっかけとしたい。
	藤 沢 市	コロナ禍が収まり、天候(暑さ)の影響もさほどなく、全体の半数の店舗が前年売上を超えている状況である。大幅な最低賃金上昇を来月に控え、収益悪化を避けるため、販売価格(サービス価格)に転嫁し、対応する店舗が少なくない。今回の商品やサービス値上げ、今後の消費動向に対して、影響するか否か、商店街全体で注視している。
サービス業	温泉旅館・ホテル	円安の影響で欧米の団体ツアーが多く入っております。日本人客の団体も増加しており、9月も引き続き1ヵ月通して各施設で高稼働が続きました。コロナ、インフルを理由のキャンセルが増えている。人手不足で販売を制限する施設が出始めている。
	フィナンシャルプランナー	2023年11月～12月に新人研修を実施する。対象人数は5名ほどになる予定。当組合の組織の説明や、FPとしてのスキル研修等を重点に開催する。
	情報サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・全体傾向としては前年より5G関連の開発が縮小している。前月までは赤字であったが要員の再配置を進めた結果、収益は黒字に好転した。 ・5G関連開発の大幅な縮小で、当面の売上減少と収益悪化が確定的となっている。 ・インボイス制度開始後も免税事業者を活用する場合に単価UPをお願いする再協議を9月に顧客と行い、一部の顧客とは単価UPを実現した。 ・インボイス制度開始に伴い、個人商店(飲食店)は法人では使いづらくなりそう。税務署の説明会で個人客が多い場合は免税事業者のまま問題ない旨を聞いてきたらしく免税事業者のままにする個人商店が多い様子。 ・(前回報告と同じ)日本国内の経済情勢は明るい方向に向かっているが、為替相場の円安、物価高騰、福島原発の処理水にもなう中国側での輸入制限などで、中長期的に見ると中小IT企業への影響が懸念される。
	建設設計	建築業界では、資材の高値安定で推移しており、人材不足は深刻な状況である。横浜市では、省エネ性能の高い住宅の新築・改修の促進に、ちからを入れており補助金制度も確立している。「脱炭素」は全国の共通課題で取り組みが進められている。その他、小規模な改修計画は随時公表されている。
	柔道整復師	6月施術による療養費請求の総額は対前月比の92.3%となった。小学校ではヘルパンギーナやインフルエンザ、そしてコロナが流行っているという。ただしそのほとんどが軽症であり、入院が必要であったりするような子供はいないようだ。いまだに効果の疑われるマスクを継続し、マスクは新しい感染症を極度に煽っているが、コロナに関しては専門医でも対策の必要性などが分れだしている。学級閉鎖も増加し、1週間程度の閉鎖が相次いでいるため、外出制限も必然的に生じている。マスクとウィルスの大きさから推察しても、また毎日朝、屋にマスクを替えていないことや、ウィルスや細菌がマスクの中で異常に増殖する可能性からみても、むしろ逆効果にはならないだろうか？ 熱中症の可能性もまだ下がり切っていないわけではないこの時期に、健康増進のためにむしろマスクは外し、あまり効果の期待できなくなった感染症対策をよして外出をして免疫力を増強させる施策に切り替えていただかないと、海外からはその対策が無効と理解しているインバウンドの方々による収益だけが伸び、主に国内の対人接客対応が必要なサービス業にとってはなかなか業績回復につながらないことが明確になってきた。
建設業	管 工 事	9月も暑い日が続く、現場作業においては引き続き熱中症への対策を怠らないよう呼び掛けている。コロナ感染やインフル感染の増が叫ばれる最中、設備系の機材展などイベントが開催されるなど民間景気も上向き傾向である。一方、10月からインボイス制度や新たに製品の販売価格が1割強も上昇するなど取引上の厳しい面もある。公共工事の下期の早期発注が待ち遠しい日々である。
	電 気 工 事	人材不足、燃料費等の増加。
	空 調 設 備 工 事	まだ材料・原油などの値上げが続いているので利益が出ない。そこに人手不足などで工事の遅れが目立っている。そのために他の現場と重複するため人手不足で工事の遅れが多くなると思う。
	畳 工 事	今年度技能検定一級1名・二級2名が誕生した。秋の展示会が10月15日相模原市立産業会館で開催。10月10日から12月19日まで畳替えキャンペーンと銘打って、お客様に感謝の気持ちを込めて行う。今年は9月末まで猛暑が続き10月に気温がおちつき仕事がでることに期待。8月・9月は例年にない厳しい状況だった。
	建 具	木材、金物の高騰がいまだに続いている。見積を出しても翌週には仕入金額が変わってしまい、再見積りとなる。仕事量は若干だが、増えてくる兆しは見える。

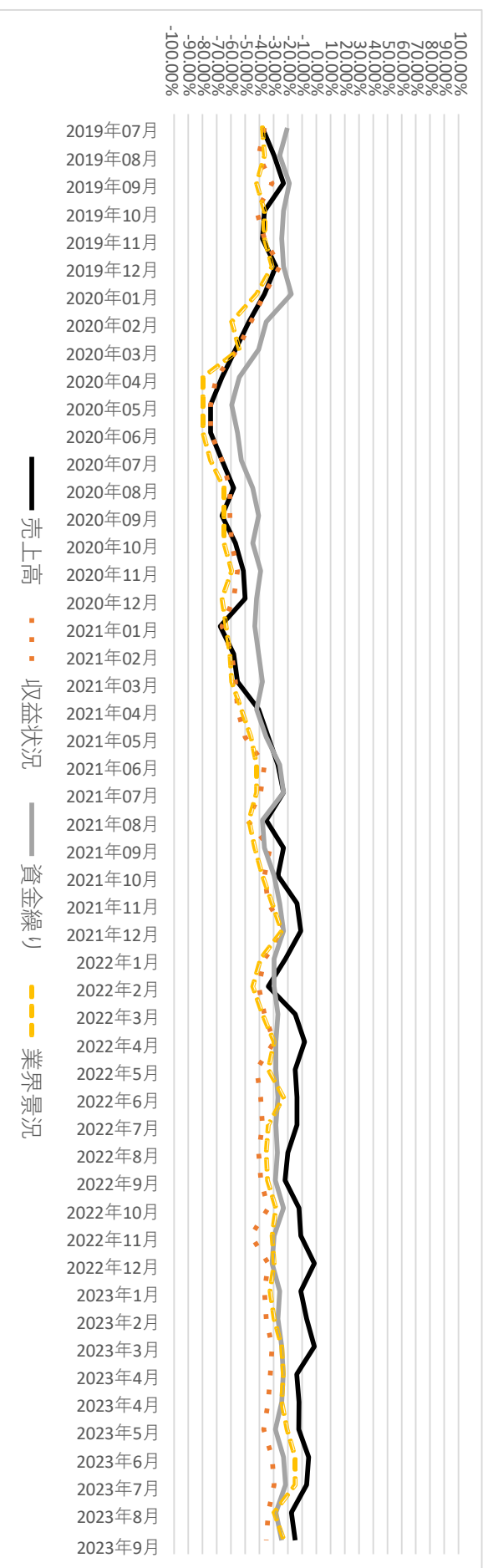
情報連絡一覧票（9月）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）									
運輸業	道路貨物	荷物量は少ない中で横ばい状態が続いている。国交省や公正取引委員会で荷待ち時間の削減や適正な運賃の收受等により、トラックドライバーの労働条件を改善することが急務となっており監視を強めているが、名指しされた荷主は事業者との協議については行うようになったが、いろいろな理由を付けて原価計算は無視して値上げは1%程度しか認めず、適正運賃の收受にはほど遠く、話し合いに応じたという結果のみとなっているとの声が大半である。トラック業界では標準的運賃の收受を荷主に要望しているが、標準的運賃を受け入れている荷主は少ない上、標準的運賃の基礎となっている燃料単価は100円/ℓであり、100円を超える燃料代については燃料サーチャージで收受することとしているが、燃料サーチャージを認めていない荷主も多々あり、燃料上昇分の運賃への転嫁が進まない状況が続いている。トラックについてもバスやタクシーの様に認可運賃の復活が望まれる。									
	道路貨物	<table border="0"> <tr> <td>地場輸送</td> <td>前年同月比</td> <td>+4.5%</td> </tr> <tr> <td>長距離輸送</td> <td>"</td> <td>△3.0%</td> </tr> <tr> <td>海上コンテナ輸送</td> <td>"</td> <td>△12%</td> </tr> </table> 元売り各社への補助金継続により、燃料価格は低下傾向にあるが、依然として厳しい経営を強いられている。	地場輸送	前年同月比	+4.5%	長距離輸送	"	△3.0%	海上コンテナ輸送	"	△12%
	地場輸送	前年同月比	+4.5%								
	長距離輸送	"	△3.0%								
海上コンテナ輸送	"	△12%									
タクシー	当組合では、個人事業主としてインボイスの登録をした事業者は95.5%となった。9月までのんびりと構えていたが、いざ10月を迎えると記帳や納税に対する不安の声、領収書の取り扱いに関する周知徹底、インボイス制度そのものの理解、様々な問題が発生している。										
タクシー	神奈川県知事が過日（8/29）の定例会見でタクシー供給不足解消策としてライドシェア導入の検討を進める方針を明らかにした。法整備などハードルが高いとは思いますが、ライドシェアが解禁されたらタクシー業界は壊滅に追い込まれるのが懸念材料だ。										
その他の非製造業	歯科技工	コロナとインフルエンザが増えた影響か受注量は減少したが料金の値上げにより売上は前年同月並みとなった。月末に受注量が増えてきたので今後期待でき景況感の良い。世界歯科連盟（FDI）では、環境保全に向けたSDGsの取り組みを提唱している。日本でもSDGsの取組みを推進している例が出てきた。社会貢献だけでなく、SNSで活動を発信すれば求人にも有効だという。大阪歯科大学では、歯学部、医療保険学部、付属病院の各セクションに自分たちでできる取組みを挙げてもらい、ウェブサイトなどで公開中だ。環境への働きかけは、身近な一歩から始まる。									
	不動産	猛暑のためか、夏以降不動産（売買、賃貸とも）に対する問い合わせが例年になく少ない。資材のコスト高により、リフォーム関係が高額となり家主も困惑している。									
	質屋	昨年来の買い取り専門店と買い取り量の増加に伴い、夏以降は取扱量が減少してきた。一般家庭に保存された貴金属・宝石類が底をついてきた感がある。また、9月後半の円安が多少は相殺したものの、金もダイヤも国際価格の下落が顕著で、中古品販売価格の低下につながっている。									

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	パン	<ul style="list-style-type: none"> 補助金延長の動きもあるが早く決定してほしい。 また、インフラ料金については抜本的な見直し策を検討してもらわないと市場が反応しない。
化学・ゴム	石油製品	電気料金やガソリン代の値上げに対する補助金等の施策を依頼したい。
その他の製造業	工業中心の複合業種	<ul style="list-style-type: none"> 原材料、石油価格高騰への対策を講じて欲しい。 中小企業での賃金引上げに向けた支援策を講じて欲しい。
卸売業	卸団地	<ul style="list-style-type: none"> 物流費・光熱費等の仕入れコスト上昇に対する支援を引き続き、継続的に長期的かつ幅広く対応を願いたい。 インボイス制度導入（国税庁）、電子帳簿保存法改正対応（国税庁）、道路交通法改正による全業種運転者のアルコールチェック義務化（警察庁）等行政による生産性の乏しい事業者管理業務のみを強化している感が否めない。それによる事業者コストをよく考え、必要以上の締め付けに対しては、緩和できる柔軟性を求めたい。例）インボイス→軽減税率の廃止・消費税率統一、アルコールチェック→業種制限を設定、電子帳簿保存→紙保存、データ保存の選択制も可とする。等
卸売業	機械器具	来年は30年ぶりに年会費を上げるが、会員の反応が。
建設業	電気工事	材料の高騰。
建設業	建具	技能士会等が取り組む「モノづくり体験」等の、次代の子どもたちへの働きかけに掛ける予算が年々減らされる。日本の伝統技能が加速度的に廃れていく。行政等はずっと、技能・技術の後継に予算を出して取り組むべきではないか。海外の粗悪な商品が巷に溢れ、日本の伝統技能が減ってしまうのではないか。
その他の非製造業	不動産	行政への家賃給付等、生活困窮者への補助策を求める。家賃滞納がコロナ後減らない。



























中小企業団体景況グラフ(全業種の主要項目)



本調査は、神奈川県中央会が委嘱した情報連絡員の役職員74名による調査結果です、調査対象は、情報連絡員は所属する組合の組合員「全業種」の景況(前年度同月比)です。

景況天気図(前年比)

(2023年9月)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
全体	-14.9 %	-10.9 %	31.1 %	-12.2 %	-35.1 %	-24.3 %	-19.0 %	-17.6 %	-21.6 %
									
製造業	-9.5 %	-23.8 %	47.6 %	-9.5 %	-42.9 %	-33.3 %	-19.0 %	-19.0 %	-14.3 %
									
非製造業	-17.0 %	0.0 %	24.5 %	-13.2 %	-32.1 %	-20.8 %	%	-17.0 %	-24.5 %
							-		

天気図の見方・・・・・・・・各景況項目について「増加」（または「好転）」業種割合から「減少」（または「悪化）」業種割合を引いた値（KJI）をもとに作成。その基準は次の通りである。ただし、在庫数量はKJI値プラスの時には雨、マイナスの場合には晴れの方向に著した。KJIとは、「神奈川県情報連絡員調査指数」の略である。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 快晴 | 晴れ | くもり | 雨 | 雪 |
|  |  |  |  |  |
| 30以上 | 10~30未満 | 10未満~△10 | △10未満~△30未満 | △30以上 |